

インターンシップ プログラムフォーマット3【インターンシップの実習計画（プログラム）】

目的：インターンシップ参加者に対する実習計画（プログラム）を考える。

目標：インターンシップ指導担当者が、設定した目標と参加者の目標との両方を達成させるためのプログラムを設計できる。

担当者の目標：

参加者の目標：

実習内容						
ステップ	チェックポイント	実施概要	時間	実習時間	具体的な実習内容、指導方法	その他（留意事項）
導入	・ 仕事に関する質問など問いかけを通してインターンシップ参加者に興味・関心を持たせる。					
	・ 本日の目標を設定し伝える。					
	・ インターンシップ参加者がすでに持っている知識やスキル、これまでの経験などを思い出させ、実務体験のなかで使える点があるかを確認する。					
展開	・ 導入で確かめた事項との関連性や違いを伝え、実務体験の概要を説明する。					
	・ 体験してもらった仕事の意味や目的を理解させる。 ・ 本日の目標を再度確認する。 ・ 取り組む内容と流れを具体的に説明する。					
	・ 今まで学んだ情報を自分の頭の中から取り出したり、使ってみたりできる練習の機会（実践のイメージ）をつくる。 ・ 失敗から学ぶものであることを理解させる。 ・ 練習後に実際に実務を体験させる。					
	・ ポジティブなコメントやアドバイスをする。					
まとめ	・ 導入で設定した目標に立ち返って確認する場面を設定する。 ・ ポジティブな評価を心がける。					
	・ インターンシップ参加者が成果をまとめたり、復習したりする機会をつくる。 ・ 他の業務で応用ができる点などをアドバイスする。					

出所) 松坂純浩・山本美奈子(2020)「産学連携による共有型インターンシップの取り組み－中小企業の事例からみたインターンシップ受入れの意義－」『企業環境研究年報』, 25, pp149-163.

「オールモがみインターンシップガイドブック」http://stylelinkage.com/npo-mogami/data/IS_guidebook.pdf

※本フォーマットは、山形県中小企業家同友会と山形大学が協働で開発したインターンシップの「プログラムフォーマット」を参考に作成しています。